

松田青子

蓮實重彦+黒田夏子

牧田真由子→カフカ

斎藤美奈子

望月旬々

八代嘉美

大澤幸幸

円城塔

玉川重機

松下隆志

第24回  
早稲田文学  
新人賞  
速報

¥0

イジック  
なう。

「シリーズ連載開始」

# 博士と助手

松田青子

今日もみなさんご発信ありがとうございます。あなたも、あなたも、そちらのあなたも。どうもご発信ありがとうございます。ええと、それではどちらからいきましようか。そうですね、前回はこちらからだったので、今日はがらっと気分を変えてこちらからお願いしましようか。ねっ、そうしましよう。はい、そうです、あなたからです、ええ、もりかわさん。

ほう、なるほど、ふむふむ、なんと、会社で嫌なことがあつて気分が晴れず、アフターセブンに人生ではじめての一人飲み挑戦。内心ときどきしながらワインバーのカウンターに腰を落着けると、隣のスツールに座っていたこれまた一人飲みの女性と意気投合。そのまはしごした高架下の焼き鳥屋でいいにおいのするけむりに包まれ二人大笑いして、ぎりぎり駆け込んだ終電。慣れ親しんだ最寄り駅からの帰り道、夜風が頬に冷たく気持ちよく、思わず街灯の下に立ち止まり、「出会いに感謝」と書き込んだ。なるほど、出会いに感謝。うつくしい言葉です。うんうん、出会いに感謝。いいですねー、もりかわさん。えっ、なんです、まだ終わじゃない、こりゃ失礼。ええ、そして一人暮らしの自分の部屋のドアを開けてみれば、すべてじぶんのお気に入りですらえられた居心地のよいじぶんだけの空間が待っていてくれる。ふむ、ホームスイートホームというところですか。あつどうぞ、続けて。ゆっくりお



風呂につかり、お気に入りの部屋着に着替えてほっと一息。続けて「日々に感謝」と書き込んだ。日々に感謝！でましたね、もりかわさん！なんとまあ、伝わりますか、もりかわさん、私の感激が！いやーすばらしいですね。ねえ、みなさん、なかなか言えないことですよ、日々に感謝とは。日々に感謝。もりかわさん、あなたが今日経験し感じたいいろいろな出来事、様々な気持ちがある一言で、たった一言で表現できてしまういやはや、魔法の言葉ですな、「日々に感謝」とは。もりかわさん、わたくし、じぶんのこのようにうれしいです。ありがとうございます。どうもご発信ありがとうございます。あっ、こりや失敬、わたくしの汗ばんだ手で握手など求めて申し訳ありませんでしたな。どうにも喜びが押さえられなかったもので。さあ、こうやってタオルハンカチでしっかり汗を拭きましたから、ね、みなさん、大丈夫ですよ、ほら、このとおり。

それでは、そう、まえださん、あなたです、あなた。なんです、好きな映画監督の新作を公開初日に鑑賞した。そのフットワークの軽さ、わたくしも見習いたいです、まえださん。で、なるほど、いつも通り大層おもしろく、早速「今回も〇〇節は健在！」「いつもの〇〇節が炸裂！」とそれぞれ書き込んだ。ええ、そうでした、TPOによってキャラを使い分けるまえださんには、二冊ノートをお渡ししておりますからね。なるほどー、それにしても〇〇節とはまた粹な表現をお使いになりますな。よくよくそのフレーズを見ていると別になにも言っていないじゃないか、情報としてゼロじゃないか、なんてことは気にせず「！」で押し切るその気概、アグレッシブでいいと思います。また、今回もということは、前回と同じ、つまりは毎回同じだというわけで、それって製作者サイドからしたら言われてうれしい感想なのだろうか、とそんなこともちろんこちら側からしたら一ミリも関係ないわけですからね。ないですな。です。まえださんはコアなファンなわけですから、もちろん褒めているわけです。ええ。あれですな、なんだかあれを思い出します。ほら、あの大手通販店の商品の感想を書くあのページでたまに見る「気軽にみれておすすめですよ」「すぐ読み終えられるのでおすすめです」っていうあれを思い出しました、わた

くし。あれもなんといえますか味わいのある言葉でありますな。それはだから褒めているのかと、書き込む前に一度持ち帰って上司と検討して頂きたくりますな。少々脱線してしまいましたが、いや、まえださん、すばらしいですよ。〇〇節。まえださんがその監督のことを知っていて、その監督の作品を毎回チェックしているという事実をさくっとみんなに知らしめたい、そのアピール、わたくしの胸にしかと突き刺さりました。みなさんの胸にも突き刺さりましたよ、ね。いやはや、なんと有効な言葉なんでしょうかねえ。それにしても節ってなんでしょうな、節って。うーん、コギリコギリコ。おっと失礼、いま一瞬意識がはるか遠くをさまよいそうになってしまいました。まえださん、どうもご発信ありがとうございます。ええ、もうお座りになって頂いて結構ですよ、はい。

おや、どうやらはじめてのようですな。ええと、かわたさんでよろしいでしょうかね、ああ、かわたさんですか、失礼しました。それではかわたさん、どうぞはじめてください。ええ、ええ、もちろんわたくしもおぼえております、あれは痛ましい出来事でしたな。はい、確かに、事件直後はみんなその話ばかりしていたのに、今になってみるとどれも口に出しもしない。そんな簡単に忘れていいものかと、「みんな忘れちゃったのかな、みんなそう思わないのかな」と書き込んだ。かわたさん、あなたのお気持ち、よくわかります。そのことについて書かない人、話さない人は、そのことについて考えていない人、忘れてしまった人というわけですね。いやー、耳が痛いですが、心の中で勝手に思っていたって他人にはとんと伝わらないわけですから、そりやそう思われたって仕方ありませんよ。ええ。現代は、「わたしは戦う」「わたしは疲れた」と公言している人だけが戦っている、疲れている世の中ですから。ふむ、口に出したものの勝ちですね。それにしてもなかなかとてもはじめてとは思えない着眼点ぶりで、これからは末恐ろしいといえますか。かわたさん、はじめてのご発信まことにありがとうございます。わたくし、期待しております。

さてさて、お次は誰ですか、おっと、我らがのおおくぼさんではないですか。みなさん、おおくぼさんですよ！おおくぼさん、今日もご発信よろしくお願いいたします。はい、ふむつ、きました、おおくぼさんの十八番！「ご冥福をお祈りします」。亡くなられる前はそんなに興味がなかったのに、訃報を聞いた瞬間その人を大好きになり、ごじぶんのエピソードを交えながら繰り出すおおくぼさんのこの一言には定評がありますね。そんなに好きだったのなら、その人の生前にもっとアクションしておけばよいなどと思うのはなはだ野暮と言わねばなりません。一つ一つの死を悼み、すくいあげる細やかな感性、感服しきります。ちなみにおおくぼさんには、新しく話題にのぼるようになった人に対してとにかく「天才！」と褒め称える必殺技もありまして、これもまた素晴らしい反射神経だなと、ええ。おおくぼさんは天才だらけの世界にお住まいになられていて素敵ですね。それになんともまあおおくぼさんはやさしい世界に住んでおられるのでしょうか。わたくし、おおくぼさんの発表を聞くと心の垢がとれるようなそんな心持ちになるのですよ。知らないうちにこびりついていたじぶんの汚れに気付かされるといえますかね。あの、博士、お言葉ですが、わたしはやっぱり納得できません。博士はずっと嘘をついています。そうですね、博士。本当のことを言ってください、本当のことを言ってください、博士！

突然挿入された自分の声に、わかつていたはずなのにびくつとして、一時停止のボタンを押した。いまの自分の声だとは思いたくなかった。場を乱す闯入者の声は、みにくい声をしていった。この後の展開もよくわかつている。たがが外れたように自分の気持ちをまくしたてる私を博士はなだめ、皆の間に広がりつつあった不安とパニックをなんとか丸く納めると、じゃあ少し早いけど今日はこころへんにしましょうかと閉会を告げた。博士の研究に口を出すなんて馬鹿なことをしてしまった。私は博士を尊敬しているのに。こんな助手では助手失格だ。二週間ほど前、渡辺くんが良ければ助手になりませんか、皆にはまだ内緒ですよと私なんか声をかけてくださった博士のやさしい顔を思い出した。それからすぐに部屋から出ていく際の皆の顔が脳裏に浮かんだ。一様にうつろな表情をしており、そのうち

何人かは私がまき散らした不安を持ち帰ってしまったに違いなかった。これではまったく助手失格だ。私はためいきをつくと、イスにもたれたまま、後ろに伸びをした。テープ起こしを続ける気にはなれなかった。私はそのまま、頭の後ろで腕を組むと、目を閉じた。

「調子はどうかな？」

「博士」

気がつく、マグカップを二つ手に持った博士が後ろに立っていた。博士は私の両手を包み込むようにまだ温かいカップを手渡してくれた。「気分は落ち着いたかな？ 渡辺くん」こんな風に博士に渡辺くんと呼ばれるのが私は好きだった。私だけ特別みたいに感じられるから。

「博士、さっきはすみませんでした」

「いいんだよ、もしまだ気持ちが落ち着いていないようなら、もう一度私に話してごらん。いくらでも君の話を聞くから、ね、渡辺くん」

博士が至近距離でまっすぐ私の目の奥を見つめながら、私の肩にやさしく手を置いた瞬間、私はなんとか停止したはずの再生ボタンがまた押されてしまったような気持ちになった。言葉がまた溢れ出した。「博士、私、この世界が嫌いです。この世界が大嫌いです。こんなだれでもなんでも言えちゃう世界がすごく嫌です。ちがうんです、なんでも言えちゃうことが嫌なんじゃないんです。何でも言えちゃうことで、博士が私たちに渡してくれたあのノートに書き込むことによって、気が済んでしまうことが嫌なんです。わかりますか？ 博士。森川さん、一日、いろんなことがあって、いろんなことを感じていたはずなのに、会うたびいろんなことを話してくれてすごく面白い人なのに、あのノートの中だと「日々に感謝」だなんてたった一言で気が済んでしまう。森川さんのいろんな気持ちが小さくなってしまふ、終わってしまふ。誰が最初に使ったのかもう今ではわかりようもない納まりのいい言葉に引き寄せられて、あの一言に気持ちをぜんぶパカってはめこんだみたい。私たち、いつの間にか言葉に使われてる。利用されてる。なんでも書いてもいいよって、でも私たち、少しも自由になつてなんかいい。こんな治療おかしいです。博士は私たちに嘘をついています」そ

んなことないんだよ、渡辺くん。さっきも言っただろう？ これは君たち患者にとって効果がある治療法なんだ。抑圧され続けてきた君たちが唯一自分を解放できる場所がああノートなんだ。よく考えてみてごらん、皆幸せそうだろう？」笑わせないでください、博士。博士だって、みんなの成果がうれしいですみたいなふりして、あんなの逆に馬鹿にしているだけじゃないですか。気がつかないでも思ってるんですか？ 患者はそんなに、わたしたちはそんなに馬鹿じゃないです。なにか陰謀があるんでしょう？ わたしたちに自由を与えているふりをして、これからずっとじぶんの頭で考えられないように、いろいろ感じないように、洗脳しようとしているんじゃない？ おおくぼさんなんか見てください、歴代のノート総計十三冊中くり返しくり返し「天才」「天才」「天才！」って、あんなのもうロボットと化してるじゃないですか。R2D2やC3POの方がまだ個性がありますよ。おおくぼさんをあんな風にしたのは博士、あなたです。わたしはあんなノートじゃない。わたしはあのノートにもう一行だって書きません。わたし、わたし、博士なんてだいきらい！ こんな世界、だいきらいです！

「調子はどうかな？」

「博士」

気がつく、マグカップを二つ手に持った博士が後ろに立っていた。私は再生していたボイスレコーダーを一時停止すると、イヤフォンはずした。

「進んでいるかな？ 伊藤くん」

「前にも言ったと思いますけど、その「くん」付で呼ぶのやめてもらってもいいですか。ありがちな属性付きの疑似恋愛プレイに人数不足でかり出されてるみたいな気持ちになるんで」「そうだったね、すまない、伊藤さん」

「今日の渡辺さんの分はもうすぐテープ起こしが終わります。でき次第渡辺さんが途中までやってくれた分とあわせて報告書を作成します」

「そうか」

「博士」

「うん？」

「博士のいやらしいユング気取りは置いといて、実験は成功で

す。彼女、完治しました。先ほど最後にすれ違ったときも、もう来ません、二度と来ません、と笑顔で言っていました」

「ああ、彼女はこれから自分の胸の中にあるいろいろな気持ちを吐き出したとは二度と思わないだろう。以前のように飢餓感に襲われることもない。むしろ自分の胸の内にあるものこそが一番尊いのだと、誰にも見せてたまるかと自分の気持ちを抱きしめながら、生きていけるはずだ」

「はい。しかし博士の考案したこの方法は一定の成果を出しているとは言えますが、患者の数は増え続けている現状、効率が悪いのではないかという懸念もあります。大久保さんのようにいつまでたっても改善の兆しが見えない患者さん多いらしいいますし」

「こうなつてくると逆に大久保さんの揺るがなさも尊敬に値するな。今日の渡辺さんのように完治間際の患者が騒ぐと周りに伝染し、ヒントを与えられたように手づる式に快方に向かう患者が続けて出てくるが、大久保さんは何度その機会があつてもノートの中で充実しているだけだからな」

「ほかにもっといい治療法があるのではないのでしょうか？ こまでくると責任問題にもなりかねません」

「いやなに、いざとなつたらノートをすべて燃やせばいい。そうすれば跡形もなく全部なくなる。それからまた考えればいいじゃないか。みんな一からはじめればいい」

「博士」

「うん？」

「博士のそういうところ、ヘッドがでそうです」

「うん？」

「正直ヘッドがなにかよくわからないですが、それでもヘッドがでそうです」

〈了〉

松田 青子 Matsuda Aoko

79年兵庫県生。福永信・長嶋有らの同人誌「イルクティック2」で発表した「ジャンプリアンドリンス」から、その奔放でリズミカルな文体とスパイスの効いた物語で一気に読者を惹きつける。主な作品に「ウォーターブルーの嘘はつかり！」（早稲田文学増刊U30）、「もうすぐ結婚する女」（早稲田文学増刊Z）、「ノースリーブ」（すばる、2010年9月号）、「マーガレットは植える」（早稲田文学増刊 震災とフィクションの「距離」）など。

受賞作

# 「*ab*さんご」 黒田夏子（くろだ・なつこ）

一九三七年東京都生（七五歳）。早稲田大学教育学部卒業。教員、事務員、校正者などを経て、本作を発表。

第24回早稲田文学新人賞は、三九一篇の応募作の中から三〇篇を予選通過、うち五篇を二次予選通過とし、上記作品を受賞作と決定いたしました。受賞作の全文は、近日発売の本誌「早稲田文学⑤」に掲載いたします。

選評 「黒田夏子の『*ab*さんご』が

群を抜いて素晴らしかった」

蓮實重彦

この平成日本の文学的な環境につつまれ、それも新人賞に応募する男女の作品を読みながら、ひたすら「ため息」をもらいたいという思いをいだくのは、途方もない時代錯誤でしかあるまい。そんなことは百も承知であるにもかかわらず、川上未映子との「早稲田文学」の対談で、古井由吉を読みながら思わずもらす「ため息」について語り、「応募作品を読みながら、そうしたため息をいくつもつきたいという贅沢な期待感もあります」などと、性懲りもなく口走ってしまった。選者としては、ひたすら驚きたかったのだといつてもよい。

だが、文学作品に「驚き」を期待するほど、批評家として怠惰な姿勢もまたとあるまい。ところが、奇蹟というべきだろうか、三百作を超える応募作品の中に、一篇だけ、「ため息」をもらさずに読み終えることなどとてもできない作品がしたたかにまぎれこんでおり、その作品をみだしている言葉遣いと語りの呼吸にはとめどもなく心を動かされた。その文字をたどりながら、何度か「ため息」をもらし、何度か「驚き」、これをおいて当選作などありえようはずないと確信するのにさしたる時間は必要とされなかった。その確信をもたらしてくれたのは、黒田夏子の「*ab*さんご」である。

ほどよい書き方を心得ている書き手はいうまでもなく、ほどよい語り方を心得ている書き手も皆無ではなかった。だが、それらは、どれもこれも、平成日本の退屈さに酷似していた。まあこんなものだろうとつぶやきながら、何度も欠伸をこらえた。ところが、黒田夏子の「*ab*さんご」は、たったひとつの欠伸さえ誘発しなかったばかりか、「個性」といえば決まって「豊

かな」と応じてしまう日本語の慣習への侮りも隠そうとしない作品だった。「豊かな個性」とは、語義矛盾もはなはだし、そんな言葉を間違っても口にしてはならぬ。「豊か」さからは思いきり遠いきわめつけの「貧しさ」こそが「個性」にほかならぬ。「*ab*さんご」は、一行ごとにそういつているかに見える。作者の黒田夏子は、「きわめつけの貧しさ」だけで勝負する、優れて「個性」的な作家だといわねばなるまい。「個性」で作品を語ったためしのない批評家がそう断定するのだから、これだけは間違いない。

「固有名詞」やそれを受ける「代名詞」もいっさい使わずに、日本語で何が書け、何が語れるか。「個性」的な黒田夏子が直面するのは、おそらくこれまでいかなる作家も見すえることのなかった言語的な現実である。だが、彼女は、それを、抽象的な実験として処理するのではなく、ごく当然のこととして具体的に生きぬいてみせる。そのつと異なる「普通名詞」をまといてみせる名前のない誰かが、いつとも知れぬ時間から、これまで異なる「普通名詞」をまといわされた誰とも特定しがたい複数の人物について、あれこれ思いをめぐらせる。ただそれだけのことでありながら、それが一篇の作品として読むものの意識にひそかな震えを行きわたらせる。黒田夏子は、ごくならかな呼吸で、だが自信をこめてそうつぶやいているかにみえる。

「*ab*さんご」は、あくまで横書きで書かれ、あくまで横書きで読まれるべき作品であり、ごく素直にたどれる語彙や構文からなっているとはいいたい。とはいえ、ここでは、読む意識への言葉の無視しがたいさからいこそが読まれねばならない。誰もが親しんでいる書き方とはいくぶん異なっているというだけの理由でこれを読まずにすせば、人は生きていくことの意味の大半を見失いかねない。そうと名指されてはいない「昭和」の核家族の歴史が、それを「小児」としておぼつかなく生き始めた者の言葉として、初めてそれにふさわしく書かれた貴

## 受賞のことば

黒田夏子

散文を書きはじめたのは五歳の夏でしたから、ちょうど七十年ということになりました。さかのぼるほど通常の書きかたをしていたようですが、会話にカギカッコをつけないとか断章構成の方向とかは早くから始まっていて、その後、作中人物名が消え、カタカナ表記が消え、藤いろとは書くが藤そのものを作中に出すときにはその名称は書かないという形で植物名が消え、そのほかいろいろ消えました。文字づかいもいまだに手さぐり途上ですがかなり変則です。かといつてそういうことが目的なのではありませんから、一見して目新しい体裁というわけでもなく、いくえにも発表のむずかしい長い年月がありました。

このような作品がこの賞に出会えたのはまことに幸いだっただと思います。なにしろ募集要項に「もとより『小説』の定義は……」などとほかの賞には見かけない文言があり、正賞副賞の「受け取りを拒む権利」までわざわざ保証され、原稿の書式には思いつくかぎりのさまざまな場合が並んでいる、つまり作品のありようを最大限に認容している姿勢が、これなら拾われる可能性があるかと思わせたからです。いま結果として受賞が叶い、長かった道のりがようやくに明るみはじめた気がしています。ありがとうございます。



# ab さんご (冒頭)

黒田夏子

〈受像者〉

a というがっこうと b というがっこうのどちらにいくのかと、会うおとなたちのくちぐちにきいた百にちほどがあったが、きかれた小児はちょうどその町を離れていくところだったから、a にも b にもついにむえんだった。その、まよわれることのなかった道の枝を、半せいきしてゆめの中で示されなおした者は、見あげたことのなかったてんじょう、ふんだことのなかったゆか、出あわなかった小児たちのかおのなにかおを見さだめようとして、すこしあせり、それからとてもくつろいだ。そこからぜんぶをやりなおせるとかんじることのこのうえない軽さのうちへ、どちらでもないべつの町の初等教育からたどりはじめた長い日月のはてにたゆたい目ざめた者に、みやくらくもなくあふれよせる野生の小禽たちのよびかわしがある。

またある朝はみやくらくもなく、前夜むかれた多肉果の紅いらせん状の皮が匂いさざめいたが、それはそのおだやかな目ざめへとまさぐりとどいた者が遠い日に住みあきらめた海辺の町の小さいえの、淡い夕ばえのえんさきからの帰着だった。そこで片親とひとり子とが静かに並んでいた。いなくなるはずの者がいなくなって、親と子は当然もどるはずのじょうたいにもどり、さてそれぞれの机でそれぞれの読み書きをつづけるまえのつかのま、だまって充ちたりて夕ばえに染みいられていた。そういう二十ねん三十ねんがあつてふしぎはなかったのだが、いなくなるはずの者がいなくなることのとうとうないまま、親は死に、子はさらにかかりの日月をへだててようやく、らせん状の紅い果皮が匂いさざめくおだやかな目ざめへとまさぐりとどくようになった。ぎやくにいえば、そうなれたからたちあらわれたゆめだ。

ひきかえせないというみでなら、もっと早いつのまくらにただよいからんでもおなじだったろうが、どんな変形をへてでも親と子ふたりでくらす可能性ののこっていたあいだはもちろん、それが死によってかんぜんにうしなわれてもなお、帰着点がにがすぎればたちあらわれてはならないたぐいのゆめがあった。

ゆめの受像者の、三十八ねんもをへだてて死んだふたりの親たちのうち、さきに死んだほうの親のゆめも、ふたりともが死んでしばらくたつまではほとんどたちあらわれなかった。受像者が、あとから死んだほうの親とふたりだけというじょうきょうでつくられたじぶんに淫しきって、それいじょうさかのぼった未定などじぶんがじぶんでないからはかわりもないとかんじていたからか、かわりがないというよりはむしろ、親ふたりそろってのじぶん、きょうだいがあつたりするじぶんなど敵でしかないとかんじていたからか。

親がふたりとも死んで、さらに年をへて、朝の帰着点がさざめきでかざられるようになった者が、ゆめの小べやの戸をあけると、さきに死んだほうの親がふとんに寝ていた。寝てはいたがいのちのあやういほど病んでいるというふうではなく、そうだったのか、あけさえすればずっとここにいたのだったかとなつくした者は、じぶんの長いつかつな思いこみをやすらかにあきれていた。またべつのゆめで、親ふたりと子とがつれだつて歩いていた。歩いてはいたが、さきに死んだほうの親がすでに病んでいるともわかっていた。なおるとなおらないともきまっていなくてところまではひきかえしたということのようであり、それをゆめの受像者がじかにのぞんでいるというよりは、あとから死んだほうの親のためにひきかえしてやりたかったのにということのようでもあった。

〈つづきは下記、早稲田文学⑤で!〉

連続特集 シリーズ【本“現代”文学の、標的=始まり】  
第二回 村上春樹1&大江健三郎2

新人賞受賞作  
黒田夏子「abさんご」一挙掲載!

第25回早稲田文学新人賞、まもなく募集開始!

〆切は2012年末(予定)

選考委員・今回の募集要項ほか、詳細は「早稲田文学⑤」にて。

早稲田文学  
7月発売予定  
乞ご期待。

セース・ノーテボーム  
「儀式」(松永美穂 訳・解説)

タチアナ・トルスタヤ  
「クイシ」(貝澤哉 訳・解説)

ドン・デリーロ  
「ホワイト・ノイズ」新訳(都甲幸治 訳・解説)

さらにフランス・中国ほか、世界文学がぞくぞく来る!

超大型  
翻訳小説  
連載一挙開始



現代作家が選ぶ世界の名作リターンズ④ 選・牧田真有子

# 断食芸人

フランツ・カフカ著 原田義人訳

この何十年かのあいだに、断食芸人たちに対する関心はひどく下落してしまった。以前には一本立てでこの種の大きな興行を催すことがいもうけになったのだが、今ではそんなことは不可能だ。あのころは時代がちがっていたのだ。あのころには町全体が断食芸人に夢中になった。断食日から断食日へと見物人の数は増えていった。だれもが少なくとも日に一度は断食芸人を見ようとした。興行の終りころには予約の見物人たちがいて、何日ものあいだ小さな格子檻の前に坐りつづけていた。夜間にも観覧が行われ、効果を高めるためにいまつの光で照らされた。暗れた日には檻が戸外へ運び出される。すると、断食芸人を見せる相手はとくに子供たちだった。大人たちにとってはしばしばなぐさみにすぎず、ただ流行だというので見るだけだが、子供たちはびっくりして口を開けたまま、安全のためにたがい手を取り合って断食芸人の様子をながめるのだった。断食芸人は、顔着<sup>かぶさ</sup>さめ、黒のトリコット製のタイツをはき、あ

ばら骨がひとく出ており、椅子さえはねつけて、まき散らしたわらの上に坐り、一度ていねいにうなずいてから無理に微笑をつくらせて観客の質問に答え、また格子を通して腕をさし出し、自分のやせ加減を観客にさわらせ、やがてふたたびすっきりもての思いにふけるような恰好となり、もうだれのことも気にかけず、檻のなかのただ一つの家具である時計の、彼にとってきわめて大切な時を打つ音もまったく気にかけず、ただほとんど閉じた両眼で前をぼんやり見つめ、唇をぬらすためにときとき小さなコップから水をすするのであった。

入れ変わる見物人のほかに、観客たちに選ばれた常任の見張りがいて、これが奇妙にもたいていは肉屋で、いつでも三人が

主人公がいるのは見世物の檻の中だ。見られることを前提としたその設定のせいだろうか、読んでいると自分の立ち位置が妙にずれる感じがする。我を忘れてストーリーにのめりこみ、その世界のありさまが頭の中いっぱいによどみなく練り広げられる……というのではなく、檻のそばにボーと立って、あばら骨のくつきり出た芸人を眺めているような不思議な参加感。

この人の芸は、断食である。藁に腰掛け、時計一つ置き、なんにもしないことを芸としている。観衆は彼に夢中だ。四十日間なにも食べずに過ごせるのだから、特殊であることには違いない。誰も続けざまの見張りなどできないので、彼は常に、自分が完璧に何も食べていないことを、完璧には認めてもらえない状況にいる。しかし彼が不満なのは何より、断食が彼にとってこの世で最も易しいことだという事実への、人々の無理解だ。興行の都合上この芸は毎回四十日間で一旦やめねばならない。彼は断食をまつすぐどこまでも続行したい。時が経ちこの芸の人氣は衰え、彼はそれまでの興行主と別れて、今度はサーカスと契約する。自分にとっての「本当」を、本当として信じてもらえないことへの怒り。自分の「本当」だけで生きていくことの異様さ。展覧会で音声ガイドを聞きながら絵を眺めるように、私は檻のそばで、語り手による断食芸人の心の実況を

同時に見張る。彼らの役目は、断食芸人が何か人に気づかれないうようなやりかたで食べものをとるようなことのないように、昼も夜も彼を見守るということだった。だが、それはただ大家を安心させるために取り入れられた形式にすぎなかった。というの、事情に通じた人びとは、断食芸人はどんなことがあっても、いくら強制されても、断食期間にはけっしてほんの少しでもものを食べなかった、ということをよく知っていた。この術の名譽がそういうことを禁じていたのだ。むろん、見張りがみなそういうことを理解しているわけではなかった。ときどきは見張りをひどくいい加減にやるようなグルーブがあった。彼らはわざと離れた片隅に坐り、そこでトランプ遊びにふけるの

聞きながら見ている。痩せこけた彼と目が合うことはない。ただ時おり、彼の意志のように語られることのない彼の呼吸や体温が、ゆらゆらと燃えるように見えて、目を凝らす。食を断つといっても彼は全く自分の生を否定してはいなかった。やがて彼はサーカスの監督と特殊な会話を交わし、自分というものの特殊さを静かにほく。

だからなのか、小説の終わりにいきなり現れる存在は一瞬、断食芸人という輪郭から軋がり出たあざやかな命みに見えた。彼と違い、それはからだ全体でこちらを見る。なんだかぎよつとする。急に自分のからだの不透明になる。私の命にとって、私の心とは何なのか？ その隙間、自分では計れないその誤差を見破られるように、私はぐつと小説の外へ押し戻される。

檻のそばで足をとめたきり中断していたこの一日の、澄んだ切断面にまた自分の影が滲み出していくのを、つかのまだけ人ごとみたいに眺めてみる。



牧田真有子

Makita Mayuko

80年生。橋子で『アザラシ』新人賞奨励賞を受けデビュー。人の抱える奇麗なさと世界の争む不確かなさを一つ一つすくいあげ、描きとる。早稲田文学サイトで連載中の『泥棒とイグワ』は、命の危機に瀕した女子高生と、彼女を救ったS気味のフラァー男子、クセ者揃いの同級生がくり広げる恋愛小説。www.bungaku.net/masabun/read/

だった。それは、彼らの考えによれば断食芸人が何かひそかに同意してある品物から取り出すことができるはずのちよつとした飲食物をとるのを見逃がしてやっていた、というつもりしなかった。こんな見張りたちほどに断食芸人に苦痛を与えるものはなかった。この連中は彼を悲しませた。断食をひどく困難にした。ときどき彼は自分の衰弱をじっとこらえて、この連中がどんなに不当な嫌疑を自分にかけているのかということを示すため、こんな見張りがついていっているあいだじゅう、我慢できる限り歌を歌ってみせた。しかし、それもほとんど役に立たなかった。そうすると連中はただ、歌を歌っているあいだにもののが食べられるという器用さに感心するだけだった。芸人にとって



は、格子のすぐ前に坐り、ホールのぼんやりした夜間照明では満足しないで、興行主が自由に使うようにと渡した懐中電燈で自分を照らすような見張りたちのほうがずっと好ましかった。そのまぶしい光は彼にはまったく平気だった。眠ることはおおよそできないが、少しばかりまどろむことは、どんな照明の下でも、どんな時間にも、また超満員のさわがしいホールにおいても、できたのだ。彼にとっては、こうした見張り番たちといっしょに一睡もしないで夜を過ごすことは好むところだった。こうした連中と冗談を言い合ったり、自分の放浪生活のいろいろな話を語ったり、つぎに今度はむこうの物語を聞いたりする用意があった。そうしたことはすべて、ただ彼らを目ざまえておき、自分が何一つ食べものを檻のなかにもってはいないというところ、彼らのうちのどれだてでできないほど自分が断食をつづけているということを、彼らにくり返し見せてやることのできるからだ。しかし、彼がいちばん幸福なのは、やがて朝がきて、彼のほうの費用もちで見張り番たちになつぷり朝食が運ばれ、骨の折れる徹夜のあとの健康な男たちらしい食欲で彼らとその朝食にかぶりつくときだった。この朝食を出すこと

のうちに見張り番たちに不当な影響を与える買収行為を見ようとする連中さえいることはいたが、しかしそんなことはゆきすぎだった。そういう連中が、それならただ監視ということだけのために朝食なしで夜警の仕事を引き受けるつもりがあるかとたずねられれば、彼らも返事はためらうのだった。それにもかかわらずこの連中からは嫌疑は去らなかつた。

とはいえ、これは断食というものとおよそ切り離すことのできない嫌疑の一つではあった。実際、だれも連日連夜たえず断食芸人のそばで見張りとして過ごすことはできなかった。したがって、だれも自分自身の眼でながめたことから、ほんとうに引きつづきまぢがいなしに断食が実行されたかどうか、知ることではできなかった。ただ断食芸人自身だけがそれを知ることができた。だから彼だけが同時に、自分の断食に完全に満足している見物人であることができるのだった。だが、彼はまた別な理由からけつして満足していなかった。おそらく彼は断食によって人びとの多くが彼を見るにしのびないというのであわれみの気持からこの実演を教達しないであらうなほどともやせ衰えているのではなく、ただ自分自身に対する不満足からそ

んなにもやせ衰えているのだった。つまり、彼だけが、ほかの事情に明るい人も一人としてこのことを知らないのだが、断食がどんなにやさしいか、ということを知っていた。それはこの世でいちばんやさしいことだった。彼はそのことを秘密にしておいたわけではなかったが、人びとは彼のいうことを信じなかった。よくいってせいぜい人は彼のことを謙遜だと考えるのだから、たいていは宣伝屋だとか、インチキ師だとか考えるのだった。(後略)



フランツ・カフカ  
Franz Kafka

「断食芸人」は、電子図書館「青空文庫」(<http://www.aozora.gr.jp/>)で全文を読むことができます。また、白水ブックス、岩波文庫、みすず書房からそれぞれ解説付きで刊行されています。

廃校が決まった高校、最後の卒業式。少女七人のそれぞれの別れと旅立ち。

いつもの風景が卒業アルバムに閉じ込められてしまう前の、最後のふるえ。

今日マチ子さん 漫画家

ベストセラー『桐島、部活やめるってよ』の感動再び!!



# 少女は卒業しない

朝井リョウ

好評発売中 ● 定価 1,365円

今日、わたしはさよならをする。この校舎と、着なれた制服と、そして、ずっと抱えてきたこの想いと——。青春のすべてを詰め込んであなたに贈る連作短編集!

Profile ● (あさいりょう) 1989年生まれ。岐阜県出身。早稲田大学文化構想学部今春卒業。『桐島、部活やめるってよ』で、第22回小説すばる新人賞を受賞。デビュー作にして12万部を超えるベストセラーとなり話題に。他の著書に『星やどりの声』(角川書店刊)など。著者写真 / SAYURI SUZUKI

★現役高校生から熱いメッセージ続々。「みんなの感想」公開中!  
→<http://www.shueisha.co.jp/sotsugyo/>

◎好評既刊

桐島、部活やめるってよ

〈第22回小説すばる新人賞受賞作〉 ● 定価 1,260円

● 集英社文庫4月20日発売予定

映画化! 2012年8月 新宿バルト9ほか全国ロードショー  
キャスト: 神木隆之介 / 橋本愛 / 大後寿々花ほか 監督: 吉田大八

チア男子!! ● 定価 1,575円

コミック化! 『Cookie!』にて好評連載中

りぼんマスコットコミックス『チア男子!!①』最新刊・発売中  
漫画: まつもとあやか ● 定価 440円

● 定価は税込みです。

〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2-5-10

集英社

映画に! コミックに! 朝井リョウ ワールド



# 旧作異聞

26



『富嶽百景』  
(岩波文庫)



斎藤美奈子  
Shiohara Misako

56年生。94年、『紙婚小説』で評論活動をはじめる。古典とベストセラー、時事問題からマンガ・アニメまで、題材の硬軟を問わず古銭鑑識論の著作には、読者の物の見方をひっくり返す「からウロコ」が満載。『文芸春秋』『本の棚』など。

太宰治『富嶽百景』(一九三九年)。(富士には、月見草がよく似合う)という一文で知られる小説である。この一文から目に浮かぶのは、黄色い月見草の群生の向こうにそそり立つ富士山、ではないだろうか。富士山麓のどこかに月見草の群生地があるのだと、かつて私も信じていた。残念でした。太宰治はそんな風流な作家じゃありません。月見草の群生地？ なんなのも、存在いたしません。

一九三八年の九月から十一月半ばまで、太宰は富士山を間近に臨む御坂峠の天下茶屋に逗留した。『富嶽百景』はその日々の折々の富士の姿をまじえて綴った短編である。伝記的な事実を参照すれば、当時の太宰は薬物中毒、自殺未遂、心中未遂などが重なり、最低の状態にあった。〈思いをあらたにする覚悟で、私は、かばんひとつさげ旅に出た〉とあるように、御坂峠行きは、いわば心身のリハビリのためだったわけである。

作中で〈甲府から東海道に出る鎌倉往還の衝〉と記される御坂峠は、標高約一三〇〇メートル。山梨県笛吹市と富士吉田市を結ぶ国道一三七号線の、くねくねとした旧道沿いにある。建物こそ代替わりしたもの、天下茶屋はいまも営業していて、二階には「太宰治文学記念室」まである。

月見草のくだりが有名になった理由は単純。御坂峠に「富士には／月見草が／よく似合う／太宰治」と刻まれた文学碑が建っているからだ。太宰の死を悼んだ井伏鱒二らが建てたものという。このへんが井伏鱒二の凡庸なところなんだよな、といわざるを得ない。なぜって御坂峠から見た富士の姿は、『富嶽百景』ではむしろ酷評されているからだ。

〈あまりに、おあつらいむきの富士である。まんなかに富士があつて、その下に河口湖が白く寒々とひろがり、近景の山々がその両袖にひっそりうづくまっって湖を抱きかかえるようにしている。私は、ひとめ見て、狼狽し、顔を赤らめた。これは、まるで、風呂屋のペンキ絵だ。芝居の書割だ。どうにも注文どおりの景色で、私は、恥ずかしくてならなかった〉

碑文にとるなら、こっちでしょう。「まるで、風呂屋のペンキ絵だ。芝居の書割だ。太宰治」。皮肉っぽい分、よほど太宰らしいし、クスッと笑えるし、風景の鑑賞ガイドとしても、こちらのほうが優れている。

一方、月見草のくだりは、作品の中ほどに登場する。「私」は河口村へ郵便物をとりにいった帰り、バスの中で不機嫌そうな老婦人と乗り合わせるのだ。他の乗客が〈変哲もない三角の山〉に歓喜を上げる中、彼女だけは富士と反対側の断崖を見ており、そしていった。〈おや、月見草〉「私」の目には〈ちらとひとめ見た黄金色の月見草〉の記憶が残る。

〈三七七八メートルの富士の山と、立派に相對峙し、みじんもゆるがず、なんと言うのか、金剛力草とでも言いたいくらい、けなげにすくと立っているあの月見草は、よかった。富士には、月見草がよく似合う〉この「月見草」は植物学的にはマツヨイゲサともオオマツヨイゲサともいわれるが、いずれにしても富士と月見草は同じフレームに収まってはいないのだ。この月見草は俗化を拒む老婦人とも重なる。

御坂峠は下界と隔絶された別天地。北側へ下りれば甲府へのルート、南側へ下りれば富士吉田の町となる。「私」は何度か下界と往復するが、二つの町が正反対のイメージで描かれているのが興味深い。

吉田から来た青年は〈太宰さんは、ひどいデカタンで、それに、性格破産者だ〉という情報を持っているし、遊びに出かけた吉田は〈暗く、うすら寒い感じの町〉である。「私」にとって吉田は俗世間、あるいは恥多き過去を連想させる町なのだ。一方、甲府にはまだ見ぬ幸福な未来がある。「私」は井伏鱒二の仲介で甲府の娘さん(後に妻となる石原美知子)と見合いをし、この人と結婚したいと思うのである。仕事と私生活の分岐点としての峠。そう考えると、御坂峠から見た富士(とは吉田側の富士である)が〈好かないばかりか、軽蔑さえした〉と評されるのも、過去の自分と重なる点があったからではないかと思えてくる。でなきゃ、赤面、狼狽まではしないでしょう。小説の最後に登場するのは、下山した翌朝、甲府の安宿から見た富士である。〈甲府の富士は、山々のうしろから、三分の一ほど顔を出している。酸漿に似ていた〉。御坂峠から見た押しつけがましい富士に比べ、慎ましく愛らしい印象だ。そもそも縁談という小っ恥ずかしい事態を後ろに隠すために、前景に引張り出されたのかもしれない富士。甲府から見た富士が恥ずかしげなのは、未来の妻、ないし結婚を控えた作者の心情を映し出している! ♪

マリオ・バルガス・リョサ

悪い娘の悪戯



『最新刊』忽ち重版!  
ペル、バリ、ロンドン、マドリッド、そして東京……。ノーベル賞作家が描く、40年に及ぶ濃密かつ凄絶な愛の軌跡。  
八重樫克彦 由貴子訳 ●2940円

チボの狂宴

『最新刊』八重樫克彦 由貴子訳  
稀代の独裁者トルヒーリョの身に迫る暗殺計画を複眼的に描く、圧倒的大長篇!  
八重樫克彦 由貴子訳 ●3980円

無慈悲な昼食



『最新刊』八重樫克彦 由貴子訳  
ガルシア・マルケスの再来とよ呼ぶ声高いコロンビアの俊英による、リスミカルでシニカルな傑作小説。  
●1800円

顔のない軍隊

『最新刊』八重樫克彦 由貴子訳  
フアン・ベンテント紙外国小説賞、トウズケツ小説賞受賞作!  
母国の僻村を舞台に、今なお止むことのない武力紛争に翻弄される庶民の姿を哀しむユ・モアを交えて描き出す、傑作長篇小説。八重樫克彦 由貴子訳 ●2310円

マルコス・アギニス

逆さの十字架

『最新刊』八重樫克彦 由貴子訳  
アルゼンチン軍事独裁政権下で発禁処分、スペインでラテンアメリカ出身作家として初のプラネータ賞を受賞。欧州南米を震撼させた衝撃作! 巨人のデビュー作にして最大のベストセラー。●2310円

マラーノの武勲

『最新刊』八重樫克彦 由貴子訳  
「一八一七世紀、南米大陸での苛烈なカトリック教会の異端審問と、命を賭してそれに抗したあるユダヤ教徒の生涯を、壮大なスケールで描き出す。天啓を受けた者ども」  
合衆国南部のキリスト教原理主義組織と、中南米にびこる麻薬ビジネスの陰謀。圧倒的大長篇!  
野谷文昭氏激賞! ●3990円





図書館横断検索サイト「カーリル」のレシピ機能。好きな本を集めてレシピをつくり、いろんな人に届けることができます。ここでは、そのなかからWB編集部クボキがピックアップ！



ほととぎす  
『不如帰』  
徳富蘆花  
結核と文学を決定的に  
結びつけたベストセラー。

小説と結核の  
複雑な関係



『玉蘭』  
桐野夏生  
舞台は昭和初期の上海。いろんな治  
療法があったようですが、これは…。



『結核の文化史』  
福田眞人  
死の病とされる一方、甘美なイメー  
ジも惹起する病はいかに描かれたか。

## 近代文学が好きな人にオススメ

国語の教科書での衝撃といえば梶井基次郎。繊細な文章の『檸檬』末尾にある写真は……ごつい顔で健康そう！裏切られた！？  
当時の私たちが抱く小説家のイメージは、細面で青白い顔。なにやら貧乏っぽい。やたら咳をしている。とにかく不健康そう。  
今考えると、それはそのまま結核患者です。  
そのイメージはいつ作られ、どこで刷り込まれたのか？

きたあかり@913.6さん  
このレシピの URL  
<http://calil.jp/recipe/12275020>

最近、20年ぶりに図書館を利用してい  
ます。この間納付した地方税をすべ  
て取り返す勢いで読みまくります（笑）。



『ニッポンの工場 2011-2012』  
東洋経済新報社（編）  
〇〇工業地帯…小学校の社会科で名前を  
知った工場の驚くべき偉容！



『インスタントラーメン発明物語』  
インスタントラーメン発明記念館（編）  
誰もが知るインスタントラーメン、  
その歴史と発明者の人生。

発明  
発見  
モノづくり



『街で見かけるナゾの機械・  
装置のヒミツ』造事務所（編）  
街にはどうなっているの？と  
思う機械や装置がいっぱい。

## 社会科見学好きにオススメ

小学校のころ、社会科見学があったと思います。  
行くのが嫌だったという人は少ないのでは？  
いろいろなモノができていく様子や誕生裏話は“そうなんや〜”  
がいっぱい。そんな本を集めました。  
読んでいると何か閃いて、新たな発明・発見ができるかも！？

大阪信愛女学院図書館さん  
このレシピの URL  
<http://calil.jp/recipe/12047023>

大阪市城東区にあります。幼稚園〜短  
期大学までの総合学園であり、一つの  
図書館で一括管理運営しています。

ほんとだ。基次郎さん、強そう！レモンというよりデコボンなお顔。じつは、基次郎さんも結核で亡くなりました。「檸檬」「のんきな患者」は肺の病気にかった主人公のお話。結核は国民病と言われるほど、たくさんの人を苦しめたそうね。

レシピでは堀辰雄『風立ちぬ』、高三啓輔『サナトリウム残影』なんかも紹介されてるから、上のURLも見てみてください！それぞれの内容と人物紹介があると、どういう風に描かれてきたのかわかって、もっとうれしいな。

今も不治の病を描く話はいっぱい、結核文学から派生してきたのかも。みんな、「咯血する青年」とか「高台のサナトリウムに住む少女」とかにむせび泣いてたのかしら。なんだかキレイすぎて鼻血が出ちゃう！

## 「カーリル・レシピ」で本を紹介してくれる人、大募集！

レシピは3ステップで作ります。①オススメしたい人とタイトルを決めて、②本を3冊以上選び、③思い入れを書き込みます！準備ができればはじめましょう。

カーリル・レシピ URL <http://calil.jp/recipe>

「ウチのオススメ（レシピ版）」では毎回、書かれたレシピの中から2つを選び、ご許可をいただいた上で紹介させていただきます。

大好きなおやつとおもちゃがどうやって作られてるか、知りたくない？社会科見学なら、ダムや発電所が動くところも見られるんだよ。ひとりなら難しくて、集まって見に行くこともできるみたい。

遠くてなかなか行けないよ、という人には、このレシピが教えてくれる本がぴったり。ふだんは見られない工場の写真やイラストがいっぱい。ぜひ覗いてみて！『正式名称大百科』なんて変わった本もご紹介してくださったよ。

どんな工場とかヒミツが紹介されてるか、くわしく書いてくださるともっと楽しいよね。いつもたくさんレシピを書いてくださってありがとうございます。

本を借りるならカーリルで！ <http://calil.jp/>

## 今日のカーリル

2周年を迎え、デザインリニューアル。  
サービスもさらに充実！

Waseda Bungaku Free Paper  
**WB** vol.25

2012年5月25日発行（年4回刊）

Published by 浦野正樹

Edited by 芳川泰久 (Editor in Chief)

横山純音 青山南  
関口拓也 貝澤哉  
大内啓輔 十重田裕一  
鶴岡眞屋子 三田誠広  
家永楓 山本浩司  
桃原賢一郎  
山本浩貴

窪木竜也 朴文順  
禹丞美 市川真人  
(Concept & Direction)

Design 奥定泰之  
Special thanks to 山本恵美子 山崎貴之  
青木誠也 布施洋子  
洛西一周 杉山和世

編集・発行 早稲田文学会／早稲田文学編集部  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-12  
小池第一ビル 203  
TEL/FAX 03-3200-7960  
<http://www.bungaku.net/wasebun/>  
印刷 凸版印刷株式会社  
112-8531 東京都文京区水道 1-3-3  
TEL 03-5840-4845 FAX 03-5840-1676  
<http://www.toppan.co.jp/>

▼増刊はかもろも作っていたため、予定より3ヶ月遅れとなってしまった今号ですが、こまめに遅れ遅れになっていた新人賞の発表とともに、お届けします。どちらもお待たせいたしました。受賞者の黒田夏子さんは、選考委員の蓮實重彦氏と同年の75歳。蓮實さんは選考後に76歳の誕生日を迎えたとのこと、足して151歳の新人賞です。75歳での受賞はおそらく新人賞史上最年長。5歳から散文を書き始めて70年、というキャリアも驚きですが、

文章と黒田さん本人の若々しさにもびっくり。受賞作の全文は、7月ごろ発売の「早稲田文学⑤」にて掲載です。▽80年代に俊英として知られ、小説の編集人も務め、昨年2月に急逝した批評家・翻訳者の江中直紀。多くのひとに愛されそして惜まれた彼が、生前ついにこのことになった著作を、重松清・桂秀実・芳川泰久・渡部直己ら四人の友人が編みました。『ヌーヴォー・ロマンと日本文学』、せりか書房より発売中です。▼『坪内逍遙書簡集』が笠間書院から発売されたのを記念し「逍遙書簡展」が早稲田大学演劇博物館で開催中。詳細は <http://www.waseda.jp/enpaku/special/2012shoyo.html> にて。会期は6/3まで。(ic) ▼久々に16Pに凝縮した今号は、松田青子さんの小説シリーズが開始。早稲田文学のあちこちに出没予定。P06の牧田真由子さんは、早稲田文学ウェブで連載中。さらに渡邊大輔さんの映画論、雅堂くねさんの小説も公開！▽P01山岡尚子さんの作品中央に写っている方を探しています。お心当たりのある方は、左記の編集室までご連絡いただけますようお願いいたします。▽今号は青木淳悟氏の「体育」、米光一成氏の「冒険」、江南亜美子氏の「地獄」、キョウミナチ氏の「家庭科」がお休みです。(K)

## 平岡篤頼文庫第三回講演会

対談 重松清×根本昌夫

昭和の「早稲田文学」を支えた  
仏文学者・平岡篤頼を偲び、  
愛弟子の直木賞作家と敏腕編集者が語る

日時 2012年8月5日(日)14時～  
(時間は予定)

場所 平岡篤頼文庫

長野県北佐久郡軽井沢町追分5675  
しなの鉄道・信濃追分駅または  
長野新幹線・軽井沢駅よりタクシー

お問い合わせは  
[info@hiraokatokuyoshi.com](mailto:info@hiraokatokuyoshi.com)  
公式サイト  
[www.hiraokatokuyoshi.com](http://www.hiraokatokuyoshi.com)

# げきからぶんがくにゆうもん

望月旬々もん  
Mochizuki Shunjun

68年生。主として国内外の小説・演劇について「朝日新聞」「ボーンズ」等で望月旬々名義の書評を手がける。著書に『日本文学にみる純愛百選 zero degree of 110 love sentences』（共著）。超がつくほどの辛い物好きで、職場にはカレー部があるとのウワサも。

きみは、どんなダンスを踊れるかな？

最近ではKING OF POPのダンスとか、J-POPやK-POPのアイドルたちみたいな群舞が、もはや定番なのかな。

「Perfumeの振付を完コピできます！」というテクノポップのマニアもけっこういるんじゃないかと思うんだけど、あのロボットダンスのお手本は、1970年のドイツで結成されたクラフトワークというロック・バンドのメンバーによる人造人間みたいな振る舞い。ドイツ語で「発電所」を意味するバンド名が冠されているだけあって、クラフトワークは電子音楽のパイオニアだ。『Radio-Activity』（邦題『放射能』）というアルバムでは原子力発電の問題についても、いちはやく歌にしている——放射能に〈ストップ！〉を訴える立場から。

「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損々」って、阿波踊りで有名な囃し言葉がある。踊る人がいてそれを傍観する人がいるように、作る人がいてそれを使う人がいたのが原発。でももう、ぼくらは同じ「阿呆」にはなれない。

これからの未来を生きていくにあたって、本当のところ、何が損で何が得なのか？ 考えてみればわかることだけど、生きていくためには、人はみな、エネルギーを必要とする。それはすなわち、からだの栄養になる（安全な）食べ物だ。たとえどんなにロボットにあこがれたとしても、ぼくらは、電化製品ではないから電気は食べられないんだよね。

『おしえて！ もんじゅ君』や『さようなら、もんじゅ君』という本を読むと、原発と放射能の問題点がよくわかる。ツイッター上で擬人化されて生まれた、かわいいルックス&ちょっと辛口な「ゆるキャラ」もんじゅ君が、〈原発の世界の超問題児〉としての身の上話を——著者として——とてもフレンドリーに語ってくれているから。夢の原子炉と言われつつ、これまでに国費を1兆円以上、いまでも1日あたり約5000万円使っているけど、まだまだ未完成の高速増殖炉！ 「～ですだよ。」が口癖で、「はやくおしごとやめたいよ」（＝廃炉になりたい）と願っているというもんじゅ君は、日本の「原発銀座」こと福井県の敦賀市在住。

その福井県をよく小説の舞台とするのが舞城王太郎さん。覆面作家（「中の人」が誰だかわからない作家）なんだけど、出身地が福井県であることは公表しているんだ。エログロ&パイオレンスに満ちた不条理な世界をスピード感あふれる“しゃべり口調”で描くことに定評がある。

今回紹介するのは、五つの短篇が奇妙に交差&先鋭化してきらめく傑作小説集『短篇五芒星』（五芒星とは一筆書きで描ける星形のこと）。その最新作の中でも、「アユの嫁」と「あうだうだう」の舞台がまさに福井県だ。

鮎の塩焼きの〈肝の苦みの美味しさだってちゃんと判っている〉くらいには大人になったヒロインの姉（27歳）が、結婚相手に選んだ相手は〈鮎の神様〉！ そんな吃驚仰天な設定で始まり、山の中に嫁いだはずの彼女は神隠ししながら音信不通になってしまい……というのが「アユの嫁」。

そして、もう一方の作品に出てくる〈サボロッカ牧場〉は敦賀の森の中にあるという設定。ぬるい風が吹く夜の県道、そこには神様みたいな「悪」が存在して、人を襲うらしい。その妖怪退治に動かしむのは、初恋をこじらせた主人公と同じく地元の女子高生で……というのが「あうだうだう」。

ざっくりと言うなら今回の作品は、いずれも幻想小説で、おとぎ話めいた「怪談」として味わえる。登場人物たちは、衝動的な振る舞いや意味不明な事件のせいでトラブルに巻き込まれながらも、〈頑張って〉生きている。みなそれぞれに独特の教訓を得ていくわけだが、福井県の敦賀という土地で〈悪をなくすことが善くてことではないんやで〉というふうには「必要悪」が語られるとき、その言葉は意味深長だ。

ちなみにこの短篇集は、「子役キャラ」は活躍しないけど、「バーベル・ザ・バーバリアン」という作品の中に登場するジョナちゃんは印象に残る。アメリカの片田舎の森の中で、二日間何も食べないで彷徨っていたという、ソングス三姉弟の末っ子（6歳）。幼い彼女が、釜玉うどんを生まれて初めて食べたときに「う～ん～ど～ん」と口にする場面は、ジブリアニメばりに感動的で、かつ面白いから。♪

ロングセラー8刷！

**新宿駅最後の小さな**

**お店ベルク** 店長 井野朋也

究極の大衆飲食店はこうしてできた！

そのノウハウを書いた本。ユニークな経営術がわかる。個人店が生き残るには？

新宿駅最後。小さなお店。ベルク

定価●1,600円＋税  
ISBN:978-4-86020-277-4  
ブルース・インターアクションズ

定価●1,600円＋税  
ISBN:978-4-86020-402-0  
ブルース・インターアクションズ  
http://bls-act.co.jp/

●ベルクから生まれた本

**食の職** 副店長 迫川尚子

小さなお店ベルクの発想

愛される「味」「仕事」を生み出す秘訣とは？

食と仕事についての美味しい本。ベルク第2弾は職人VS経営者！

三万人以上がベルク立ち退きに反対署名！詳しくはベルクブログ (http://norakda.exblog.jp/) を！

コーヒー ¥210  
生ビール ¥315

Beer & Cafe  
**BERG**  
ベルク

☎ 03-3226-1288  
http://www.berg.jp  
↑ベルク通信、全バックナンバーがご覧になります。

JR新宿駅東口改札出てすぐ  
(レミネエストB1)

WB常設。コーヒーのお供に。



# 我思う、ゆえに生命あり

八代 嘉美

Yashiro Yoshimi

76年生。専門は幹細胞生物学。再生医療研究と、SF小説・マンガ・アニメの文化批評を通じて、新しい生命観・身体観の構築を試みている。さらに、広く科学技術と社会の関係性について精力的に執筆をつづける。著書に『増補IPS細胞 世紀の技術が医療を変える』、『再生医療のしくみ』(共著)など。中日ファン。

第2回

## フランケンシュタインズ・クリーチャー

前回の最後に、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン、あるいは現代のプロメテウス』について、少しだけ触れました。1818年に初版が発行されて以来、くりかえしくりかえし小説に映画に、そしてマンガに取り込まれ、アレンジされ、現代のわたしたちにとっても、なじみ深い作品です。

みなさんは、「フランケンシュタイン」にどんな印象をもっているでしょうか。私にとっては、大きな体に青いジャケットに赤と黄色の縞模様のシャツをまとい、こめかみには大きな釘が打ち込まれ、フンガー・フンガーという言葉以外は発しない、あのキャラクターが目に見えます。それは、小さい時に見たアニメ『怪物くん』に登場する、あの「フランケン」(近年実写ドラマにもなりました)の姿です。ただ、こんなどかなフランケンシュタインはごくまれで、残忍で知性を持たず、人々を襲う獠猛な怪物というものが、一般的なイメージではないでしょうか。

メアリーが、この怪物を生み出した存在として描いたのがヴィクター・フランケンシュタイン。科学者志望の青年でした。ヴィクターは錬金術師が遺した書物に感銘を受け、生命の源たる賢者の石や霊薬の再現を目指し、自然科学の勉強をしているさなか、雷が木を打つ瞬間を目撃します。それ以来、電気が持つ力こそが生命の本質と考えて、人間の「模造」をはじめ、生命の根源を理解しようとしたのです。

フランケンシュタインの物語の原型は、スイスのレマン湖の別荘での暇つぶしから生まれました。1816年の夏、詩人バイロン卿が借りていた別荘に、メアリーと恋人の詩人パーシー・シェリー、メアリーの義妹のクレア・クレモント、そしてバイロンの主治医ジョン・ポリドリの5名が集まっていたのですが、悪天候の中である日も、バイロンが「皆で一本書つづ怪談を書こう!」と提案したのです。

この当時、「生命の実体」を知ろうと、さまざまな動きが起こっていた時期でした。別荘のエピソードの25年前(1791年)、イタリアでルイジ・ガルヴァーニが《動物電気》の論文を発表しています。彼はカエルの解剖をする時、切断用と固定用の2つのメスをカエルの足に差し入れると、足がびくびくと振動することに気づきました。ガルヴァーニは生物に電気が流れることで運動が、つまり生命活動が起こると考えて動物電気と名づけ、これがすべての生命の源であると唱えたのです。

また、体のしくみを知ろうとする、現代で言えば解剖学という分野が学問として体系立てられ始めたのもこの頃です。それまでは、解剖や手術といった外科的分野はレベルの低いもの、とされていたのですが、イギリスのジョン・ハンターが「観察・比較・推論」という原則を唱えて、外科や解剖の重要性を唱え、また骨格標本などを熱心に収集していました。中には、非合法ともいえる手段をつかったものも

ありました。巨人症という病気で、身長が249センチもあった男性を標本にするために、いつ死ぬか人を雇って見張らせていたといわれています。それに気づいた巨人症の男は、棺桶に重りをつけて海に沈めてくれと遺言する。ところが、ハンターは葬儀業者に賄賂を渡して遺体を盗み出してしまったといわれています。

また、メアリーの父親であるウィリアム・ゴドウィンは文筆家として名高く、進化論の先駆者エラズマス・ダーウィン(あのダーウィンの祖父です)とは同じ雑誌に論考を寄せるなどの交流があり、夫のパーシー・シェリーが『フランケンシュタイン』初版の序文で、「この小説の着想となった出来事はダーウィン博士やドイツの生理学的な著述によるもので、決して不可能な仮定ではない」と記しています。

このように、彼女の身近なところで生命をめぐる思索が様々にはりめぐらされはじめていた中で、最初にメアリーがつくりあげたのは、ただの残忍な怪物ではなく、深い知性と悲しみを持っていたのです。その怪物は、創造主でありながら怪物の「醜さ」に怯えて逃げてしまったヴィクターに、怪物自身の生の無意味さ、共通する仲間を持たない孤独さを見せつけようと復讐する、その行為が残忍にうつったのです。

しかし、この小説の生み出されたのが怪談を作るという場であったことは重要なことです。「生命の根源を探る」という行為が、18世紀末から19世紀初頭に生きた彼らの価値観にとって、とても不気味なことであったことが推測できるからです。

「生命の原因を検討するには、まず死に頼らなければならない。私は解剖学に親しむにいたったが これは十分でなかったので、人体の自然衰頹と腐敗をも観察しなければならないことになった。(中略)生から死へ、死から生への変化に例証されるようなあらゆる因果関係を、仔細に検討し、かつ分析しているうちに、とうとう、この暗やみのさなかから、ひとすじの光がとつぜん私の上に射しこんできた。」(『フランケンシュタイン』 穴戸儀一訳)

たんとんと生命現象を物理現象へと解体していこうとするフランケンシュタインの独白は、美しくもおぞましいものとして当時の人々に受け取られたことでしょう。そして、彼女の小説は幾度も版を重ねられるヒット作となりました。

この物語がいまなお私たちにとって魅力ある存在であるのは、メアリーが禁忌に触れることを恐れつつも、彼女自身が生命の本質を追い求めようとしたことにあるのではないのでしょうか。既成概念によって構築された不可能性を論理によって飛び越えていく、そのスリルを初めて、そしていまなお体現しているのが、フランケンシュタインの怪物なのかもしれません。♪

### FUSOSHA BOOK

家元の“もと”満載!  
はんに、最後の名人落語家咄!  
**談志 名跡問答**  
立川談志 &  
福田和也、石原慎太郎、立川談春著  
●定価1,890円(税込)

酒エッセイの第一人者が贈る  
心ふるわせる珠玉の回想小説  
**愛と追憶のレモンサワー**  
大竹聡著 ●定価1,470円(税込)

時代に、文芸におもうこと、忘れてはならないこと―  
“世の中”を透かして見せる名随筆集  
**文藝綺譚**  
坪内祐三著 ●定価1,995円(税込)

### 超世代文芸クオリティマガジン

**en-taxi**  
ODAIBA MOOK No.35 SPRING 2012

坪内祐三  
矢内原英郎・立川談吉  
生島淳・津村記久子ほか  
円城塚・南沢奈央・岡本仁  
久世光彦・中村勘三郎さん  
そして私の父の「こと」  
橋口幸子  
ごん狐に誘われて  
田村隆二さんの「こと」  
長編随筆  
重松清「また次の春へ」  
小説  
佐伯三「光の闇」  
小池昌代「意気投合」  
坪内祐三・福田和也  
リリー・フランキー 重松清

【エンタクシ】 35号  
A5判 定価860円(税込)  
好評発売中  
責任編集  
坪内祐三 福田和也  
リリー・フランキー 重松清

対談  
マシコ・デラックス  
× 西村賢太  
不純にならずに生きよう  
小説  
佐伯三「光の闇」  
小池昌代「意気投合」  
坪内祐三・福田和也  
リリー・フランキー 重松清

ホームページからのご注文も可能です。全国の書店で発売中!

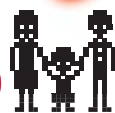
【特集】  
**追悼拡大スペシャル**  
谷口ジロー・近田春夫・吉田豪・目黒孝二  
青山真治・大澤信亮・小鷹信光・亀田和武  
内堀弘・湯浅学・細井秀雄・高橋徹:  
【特集】  
**歌謡曲の残影、**  
恩田陸・小田嶋隆・北沢夏音  
栗原裕一郎・菊地成孔:

【連載】このひとについての二万六千字  
**池澤夏樹** 取材・文  
重松清  
「漂い、さまよう死者とともに」

# 《社会》の思考

大澤 真幸

Ohsawa Masachi



『自由』の条件』や『ナショナリズムの由来』など、社会構造の観察と本源的理性への思考を綜合する思考を繰り出し続ける社会学者であり思想家。同時にスポーツや文学の批評も手がけるなど、フィールドを横断した活躍をみせている。毎月多彩なゲストを迎える月刊個人誌『THINKING O』を左右社より刊行中。

## 第4回 経済学は物理学と同じか？

経済学の基本を知らない、とんでもない勘違いをすることがある。勘違いの最たる例が、「減税は経済を刺激する」という俗説である。減税や増税で、得をしたり損をしたりする個人はあるだろうが、それによって市場全体の有効需要は変わらない。税は秘蔵されるのではなく、政府が個人に代わって使うからである。

だが、逆に、経済学こそが勘違いの源になる場合もあるのではないかと疑いたくなることもある。ときに、経済学そのものが真実を隠す幕になっているのではないかと。

経済学は、社会科学の中では、理論的に最も洗練され、経験的なデータも信用ができ、自然科学に一番近い先進科学であるとされている。それなのに——この学問を外から眺めている者には驚きだが——、きわめて顕著で基本的な経済現象についての経済学者の説明には、あまりに大きなばらつきがある。ときには、ほとんど正反対であったりする。「失われた20年」とされている、1990年以降の日本経済の超低成長についての説明を例にとってみよう。1991年以降、日本の名目GDPはまったく増えていない（「名目」という語が曲者である。「名目」と聞くとか何だかどちらでもよいもので、肝心なのは実質だと思いたくなるが、経済ではしばしば、実質\*\*は理論的な仮構であり、名目\*\*の方が真に実質的である）。なぜこれほど長い間、低成長なのか。経済学者の説明はばらばらだ。生産性が低迷しているからだと言う者もいれば、行財政改革が不徹底だからとする者もある。民間の資金需要が減退しているからだとする者もあるし、不良債権処理の遅れを問題視する論者もある。日銀の金融政策がダメだったからだと言主張する者もある。なぜ、われわれが最も知りたい肝心でメジャーな現象について、専門家の見解がこんなに違うのか。

マーシャル・ジェヴォンズ（実は二人の経済学者の筆名）のミステリーに『経済学殺人事件』という作品がある。ハーバード大学の教授昇進に絡む殺人事件で、経済学者のスパイマン教授が探偵役だ。謎を解くのに、スパイマンの経済学の知識が役に立つという趣向になっている。はっきり言って、ミステリーとしては凡作である。

中にこんな場面がある。若手経済学者の昇進を決める会議で、経済学以外の分野の学者たちが、その経済学者の理論的な論文にケチをつける。この理論は現実とまったく違う、と。するとスパイマンが、この若手の論文を擁護して大演説をする。物理学では、質点（質量をもつ大きさをもちない点）が真空でどのような運動をするかを計算する。質点も真空も現実には存在しないから、その意味で現実とは一致しない。しかし、それらは、力学的な観点から見た、現象の本質の抽象であり、現実とは一致しなくても、現実を予想したり、説明したりするのに役立つのだ。経済学もこれと同じである、とスパイマンは説く。

人工衛星を飛ばすときまず、ニュートン物理学に基づいて、質点の真空での軌道を計算する。人工衛星は点ではないし、空気等の抵抗もあるので、そのままでは使えない。そこで、同じように物理学理論を使って抵抗等を計算し、補正する。それに基づいて打ち上げると、衛星を所期の軌道に乗せることができる。

経済学もそうになっているのだろうか。見解のあの極端な分散は、疑念を抱かせる。まず、現実の肝心な部分、本質を抽象した理念的な理論モデルがある。その後、例外や逸脱にあたる部分を補正して、実際の経験的な現象を説明する。経済学のあまりの無力は、後者のステップではなく、前者のところすでに経済学は躓いているのではないかと、という疑いをわれわれにもたせてしまうのだ。

もう一度、低成長に立ち返ってみよう。不況（売れない）ということは、需要が不足しているということである。ところで、何に対して不足しているのか？ 無論、供給に対してである。

だが、経済学の最も基本的な理論モデルに従えば、需要が不足する（供給が過剰になる）などということはありえないのだ！ 何かを需要するためには、同じだけ何かを供給しなくてはならないからだ（さもないとどうやって支払うのか）。物々交換を考えると分かりやすい。このとき需要と供給は同じことの二側面なので、恒等式的な必然性をもって需要と供給は一致する。これを、セイの法則という。実際の取引は物々交換ではなく、貨幣が用いられているのだが、貨幣を受け取る人（供給する人）は、それによって何かを購入する（需要する）ためにこそ、支払を受け入れているのだから、貨幣が入っても、事態の本質は変わらないと考えられている。

しかし、実際に不況になるではないか。そこで経済学者は考えた。財の需要が減っているのは、貨幣への需要が増大しているからだ、と。ケインズは、これを流動性選好と呼んだ。どうしたら、過度な流動性選好を克服できるのか。貨幣をたくさん供給してやればよいのだ（貨幣が足りないのを、われわれは貨幣＝流動性に執着するのだから）。これが、日銀による金融緩和である。

ところが、である！ いくら貨幣を増やしても、——われわれが今経験しているように——財の需要は増えないときがあるのだ。これを「流動性の罠」と呼ぶ。流動性の罠とは、金融緩和策がまったく効果をもたない状態で、まるで流動性選好が無限大になってしまったかのように見える現象のことである。「罠」という比喩が示すように、流動性の罠は、本来はありえないことであり、経済学的には、その原因はさっぱりわからない。

流動性の罠は、言ってみれば、例外の例外である。まず、需要＝供給の、「セイの法則」の成り立つ理念的な状態がある（物理学で言えば、質点・真空のモデルに対応）。売買に貨幣という媒介が入ることで、流動性選好のような例外が起こる（流動性選好は、物理学で言えば空気抵抗のようなものである）。そして、市場で、例外の方が支配的になってしまった状態が、流動性の罠である。

一段階の例外であれば、理念的なモデルからの逸脱で、何とか説明できる。しかし、例外が重畳し、例外と一般の関係が逆転したときには、もうお手上げだ。そのとき、われわれは考え直すべきではないか。本質を掘り上げたことになっている、最初の理念的モデルが根本的におかしかったのではないかと。理念的モデルから漏れてしまう例外にこそ、実は事態の本質があったのではないかと。と。

最新刊

表紙・グラビア写真・篠山紀信



早稲田文学 記録増刊 震災とフィクションの“距離” Ruptured Fiction(s) of the Earthquake

## 想像力は、震災にいかに対峙したか

2011年3月から9月までに、15人の小説家が書き送った16のチャリティ作品を収録。

英中韓3カ国語に訳され、ウェブ上で公開、世界各地で読まれた翻訳バージョンと、執筆者たちによる対談・座談も掲載。限定1000部刊行。

収録作家：古川日出男 重松清 阿部和重 青木淳悟 福永信  
川上未映子 中村文則 村田沙耶香 中森明夫 松田青子  
円城塔 鹿島田真希 木下古栗 牧田真有子 芳川泰久

定価 1890円（税込）ISBN:978-4-948717-05-3 発行・発売：早稲田文学会 全国書店、Amazon等のネット書店、早稲田文学ウェブサイトでご購入いただけます。

H  
R

こ  
く  
こ

さん  
す  
う

げ  
ん  
し  
ゃ

せい  
ふ  
つ

き  
ゅう  
し  
ょ  
く

とし  
よ



# 数学への長い道

円城塔 EnJoe Toh

第5回 好き、好き、もっと好き?

たまには算数パズルみたいなことでもしてみましょうか。パズルというよく出てくる、三次の魔方陣でも見てみましょう。3×3の升目に1から9の数字を重複しないように並べ、縦横斜め、それぞれ足して同じ数になるようにせよというあれです。三次の魔方陣は回転やひっくり返しを除けばこの一つしかないことが知られています。

「足すと……全部15だ!」

と今更驚きを新たにする人も少なからうと思われるので、話題を次に転がします。サイコロなんかつくってみましょう。

無地の立方体をA、B、Cと三つ用意して、それぞれの面に、サイコロA(2、2、4、4、9、9)、B(3、3、5、5、7、7)、C(1、1、6、6、8、8)と書いてみます。この数字はどこから来たかといいますが、魔方陣の各行を上から順に横に読んでみただけです。小さい順にはしていますが、サイコロの面は六つあるのに数字は三つしかないので、同じ数字を二面に書きます。

さて、勝負です。相手にサイコロを一つ選んでもらい、あなたも一つ選びます。一緒に振って出が多い方が勝ちとします。あなたはどのサイコロを選ぶでしょうか。数字がばらばらなんだから、どこか強いサイコロがあるに違いないと考えるのは自然です。お先にどうぞ。Aを取ります? ではわたしはBを取ります。Bを取ります? ではわたしはCを取ります。Cを取ります? ではわたしはAを取ります。

ちょっと計算するとわかりますが、わたしの選んだサイコロの勝率は5/9、約56%になります。

せっかく魔方陣を用意したので、縦にも数字をとってみましょう。左から順に読んでみて、サイコロに記す数字を、A(3、3、4、4、8、8)、B(1、1、5、5、9、9)、C(2、2、6、6、7、7)としてみます。こちらも同じに、AよりBが、BよりCが、CよりAが相手よりも強いサイコロです。

このサイコロは非推移的サイコロ(Nontransitive Dice)と呼ばれるもので、ちょっと人をぎょっとさせます。別に……という方はまあ読み飛ばして下さい。人間の直観と数の秩序はときに一致しないものです。そうした場合に、俺の直観の方が数より正しいと主張するのも自由ですが賭けには負けず。特に長く続けた場合には、

さてこのサイコロから得られるもやもやとした感覚は、消してしまふことができます。

コインを三枚、A、B、Cと用意しましょう。裏と表に、A(グー、パー)、B(パー、チョキ)、C(チョキ、グー)と記すとして。同時に一枚ずつを投げ、ジャンケンのルールに従うならば、AよりBが、BよりCが、CよりAが多く勝ちます。前者の勝率は25%、後者は50%。残りはあいこ。

紙が三枚あるとして、それぞれにグー、チョキ、パーと書いてあります。どれか一枚を選び、勝負をします。よほどボンクラでないかぎり、あとで選んだ方が勝つわけです。このあたりまでやってくると、あれ、何が不思議だったんだっけ、という気分にならないでしょうか。

推移性という性質は、AとBがある関係にあり、BとCもその関係にあるならば、AとCも同じ関係にあるというものです。

抽象的でわかりにくいものですが、AとBが結婚していて、BとCが結婚していたとしても、AとCが結婚しているとは限らない(というかむしろしていない)ので、結婚は推移的な関係ではありません。AがBより大きくて、BがCより大きいならば、AはCより大きいので、大きさは推移的な関係ということになります。ジャンケンなんかは非推移的。

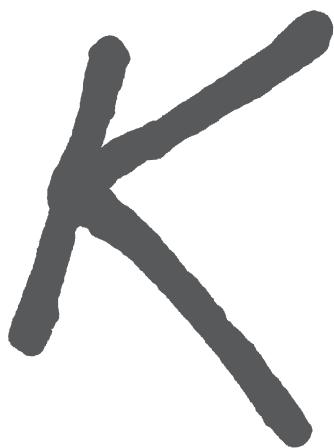
多少はすっきりしたでしょうか。もやもやを解消し、またもやもやしてくる自分の気持ちを観察するのも、数学の楽しみ方の一つです。

そんな抽象化が一体何の役にたつのかと、個人によるとしか言いようもないわけですが、自分の場合はこれで随分案になった記憶があります。小学校あたりでは、クラスの中の誰を一番好きかという話が流行り、AさんよりもBさんが、BさんよりもCさんが、と実に比べてみたりするわけです。ここで、では自分はAさんよりもCさんが好きだと結論できるのなら、トーナメント戦を組んで、一番好きな相手を決めることができるはず。トーナメントの組み方次第で結果が変わることもありません。背比べの結果は比べる順番によらず、クラスで一番背の高い奴は一人なのと同じことです。

見えないものはないと断じるのは簡単ですが、そういう抽象的な把握の方が心が落ち着き、なにやら楽しくなってくる人がいるらしいことは、覚えておくときと得です。

好きは、非推移的。当時の自分に教えてあげたい。♪

## 講談社◆話題の文芸書



### 逝ってしまった妻・Kへの想い。 半世紀にも及ぶある夫婦の物語。

円満とはいえなかった夫婦生活を、  
優しさとユーモアに溢れた眼差しで振り返るとき、  
そこにはかけがえのない  
「愛」と呼べるものがあった――。

三木 卓

定価1,575円(税込)  
ISBN978-4-06-217670-5

なぜ、  
こんなにも  
心に  
しみるの  
だろう……。



〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 講談社



## 草子ブックガイド

## 早稲田文学編⑥

玉川重機



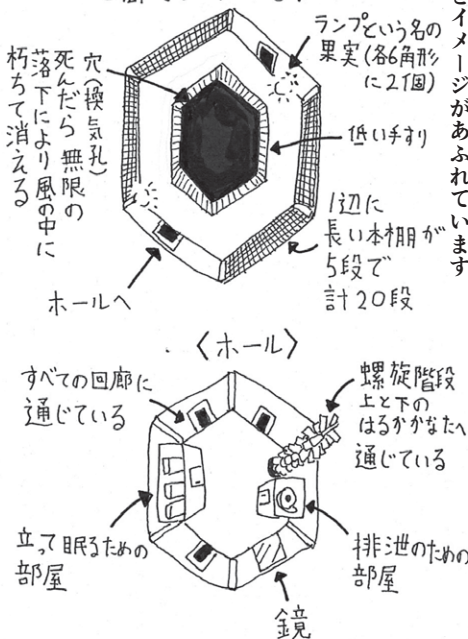
ボルヘス  
1899—1986

幻想の作家J・L・ボルヘスが描いた  
無限の宇宙の設計図、  
それがバベルの図書館です

気のいいおじいちゃん



〈図書館は無限数の六角形の  
回廊で出来ている〉



十四ページという短篇の中に驚くほどの  
知識とイメージがあふれています

そのイメージを言葉にしたがって描くなら  
どこかで矛盾が生まれます

そのイメージを言葉にしたがって描くなら  
どこかで矛盾が生まれます

無我の境地に達すると  
現われるという円形の部屋



気付けば迷宮図書館の奥深くにいるのです

「バベルの図書館」をとりあげる 「草子ブックガイド」 本編7冊目は5月31日発売の「モーニング」(No.27)に掲載予定!

さらに8冊目が6月7日発売のNo.28で続きます。新キャラ登場の噂も……!? お見逃しなく!!

この「バベルの図書館」を  
「草子ブックガイド」本編7冊目で  
とりあげる事になりました

作者です

バベルの図書館  
描かせていただく  
事になりました

無限の図書館を  
表現するために

六角形が横に  
つながっている  
断面図にしようと  
思いましたが

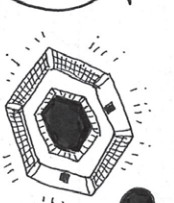
そうなる  
縦にもずつと  
続いているさまが  
表現できません

かと言って  
縦の連なりを  
描くと横の  
広がり  
描けない  
困りもつた

二つの案...  
くつつけられ  
ないですか?

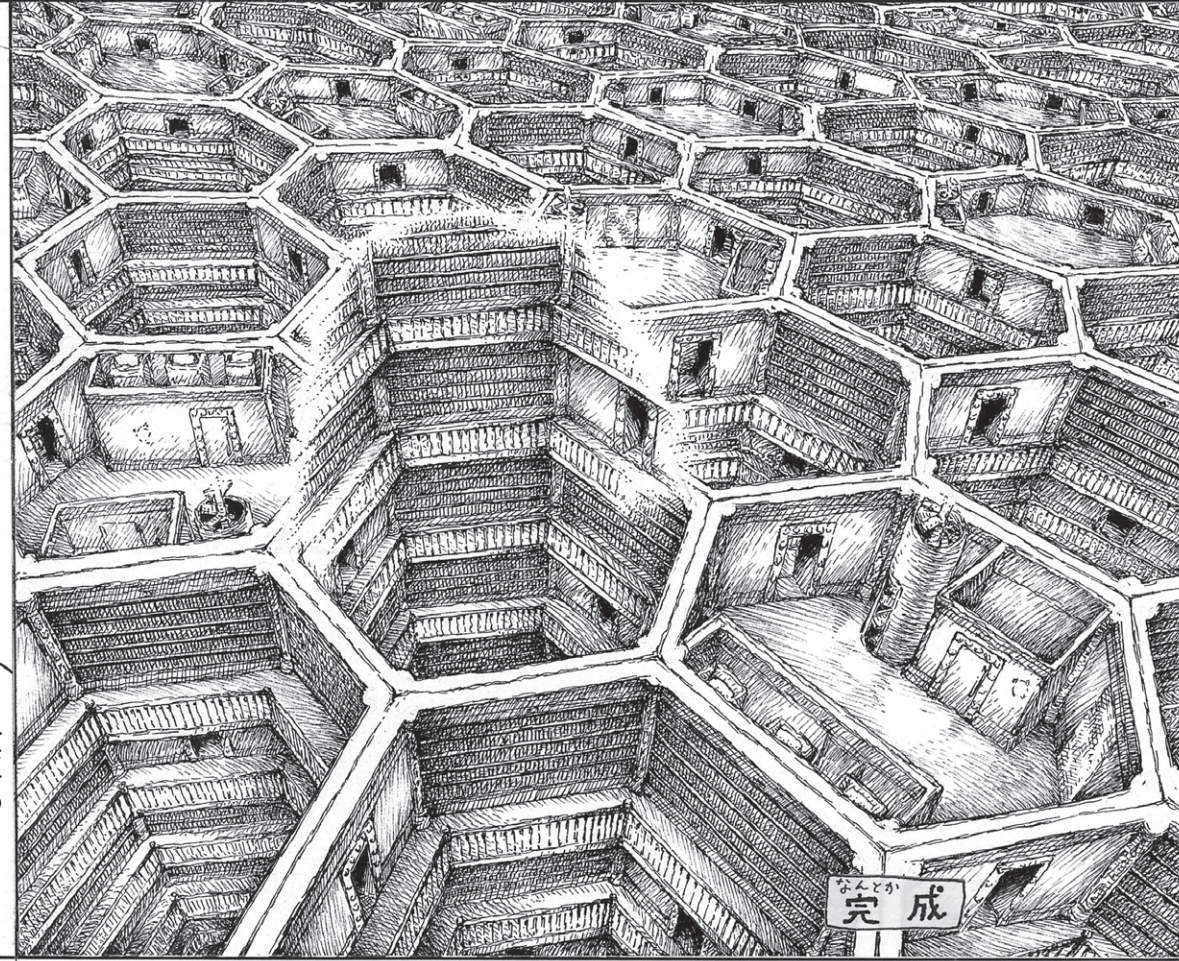


絵にはしましたが  
皆さんも  
「バベルの図書館」を  
読んで



自分だけの  
「迷宮図書館」を  
心の中に作りあげて  
くださいね!

おしまい



完成



# 日直から。

今号の日直  
松下隆志

Matsushita Takashi  
84年生。ロシア文学研究。

腐ったブリド  
——混沌を見据える言葉



「ロシア文学」と聞くとどんな作家を思い浮かべるだろうか？ ドストエフスキー？ トルストイ？ チェーホフ？ 現代のロシアにはもっと過激で、破壊的で、しかもこの上なく面白い作家がいる。「現代ロシア文学のモンスター」と呼ばれるウラジーミル・ソローキンだ。類まれな文体模倣の技術でロシアの文豪たちの作品世界を見事に再現してみせ、同時にそれを過剰な暴力・性的表現によって完膚なきまでに破壊するポストモダン的な作風から、再三ロシアでスキャンダルを巻き起こしており、日本でもカルト的な人気を博している。

そんな異端の作家に、私はデンマークのオーフス大学で行われた国際カンファレンスで直接会って話をする貴重な機会に恵まれた。「ウラジーミル・ソローキンの言語——メディア性、間文化性、翻訳」と題されたカンファレンス会場には露欧米から二〇名余りの研究者・翻訳者が参加した。作家の言語や文体について様々な観点から報告が行われたが、とりわけ二〇〇〇年代以降の作品に見られる、ポストモダンの克服ともいべき新しい「誠実さ」の指摘は大きな共感を呼んだ（二〇〇〇年代以降の作品については「早稲田文学④」掲載の拙論「脱構築から再（脱）構築へ」を参照）。今後、作品はロシアの歴史や文化、精神性といったより深い問題との関連で読まれていくことになるだろう。

その一方で、カンファレンスの間、ある奇妙な違和感が絶えず私につき纏っていた。それはおそらく、オーフスという小奇麗な街の静謐な佇まいが、ソローキンのような過激な作家を論じるにはおおよそ似つかわしくないように思えたからだろう。一日目の日程終了後、赤茶色のレンガ造りの建物が建ち並ぶ坂道を下りながら、最近読んだ亡命に関するある座談会を思い出した。そこで作家は、自分にとってロシアは「理想郷」であり、それに対してヨーロッパは「あまりにも清潔で整然」としており、「ロシアの腐敗が足りない」と語っていた。

ソローキンはしばしば「腐った」や「膿んだ」といった言葉を用いるが、こうしたお気に入りの言葉には辞書的な意味を超えた独自のニュアンスが与えられている。若き日に参加していたソ連非公式芸術集団「モスクワ・コンセプチュアリズム」が独自に編集した用語辞典を繙いてみれば、「膿んだもの…形而上学的混沌状態」、「腐ったブリド…崩壊していく物質の形象、世界のエントロピー」といった、作家のテキストや談話が出典の奇妙な項目を見つけたことができるだろう（「ブリド」は造語で、この表現は短編集『愛』収録の「巾着」に登場している）。

あるインタビューでソローキンは「トルストイはボルコンスキー（『戦争と平和』の主人公）の脇の下や吹き出物がどんな臭いを発しているかは書きませんでした。なぜならそれは彼のテキストの網目を破壊してしまうからです」と述べているが、「文学中心主義」の国といわれるロシアでは、「膿んだ」現実には常に言葉によって抑圧されてきた。その抑圧はソ連時代、いわゆる「社会主義リアリズム」の制度化を以て頂点を迎える。アルゼンチンの作家ボルヘスに実際の国土と同じサイズの精確すぎる地図を作ってしまった架空の帝国の話があるが、ソ連という実在した帝国の政治家や作家たちは、イデオロギーという単純明快な観念上の地図によって複雑で混沌とした現実を覆い隠そうとしたのだ。

まさにそのような時代に生を受けたソローキンにとって、文学的言語を卑猥語や不条理な文字の羅列に還元することは、イデオロギー

という薄膜で覆われた「膿」を紙の表面に噴出させようとする試みに他ならない。それはたんに「前衛」や「ポストモダン」である以上に、ロシアという混沌と無秩序に満ちた巨大でグロテスクな怪物の生理現象と密接に結びついているのだ。今なおソローキンの作品にアクチュアリティがあるのは、プーチンの君臨するロシアが本質的な部分では昔と変わっていない（あるいはこれから変わらない）ということなのだろう。

すでに作家はこうした未来を先取りして、二〇二〇年代後半のロシアに一六世紀のイワン雷帝時代を思わせる全体主義の帝国が復活するという逆説的な設定を含む『オプリーチニクの日』、『砂糖のクレムリン』という作品を書いているが、後者には作家が八〇年代に書いた長編『行列』のリメイクが含まれている。ソ連時代、人々は商品を手に入れるために行列をつくったが、この小説はそこに並ぶ人間たちの会話のみから構成され、連綿と連なる会話文自体が一つの長い行列に見えるという視覚的效果を持つユニークな作品だ。当時のインタビューで作家は次のように語っていた。「今、私には『行列2』を書く考えがあります。今でも行列はありますが、それはもはや別の物を求めて並ぶ行列です。たとえば、空港で検査を受けるときに行列ができますね。交通渋滞の行列もある。それらはまったく別のもののようですが、しかしそこで話されていることは同じなのです」。

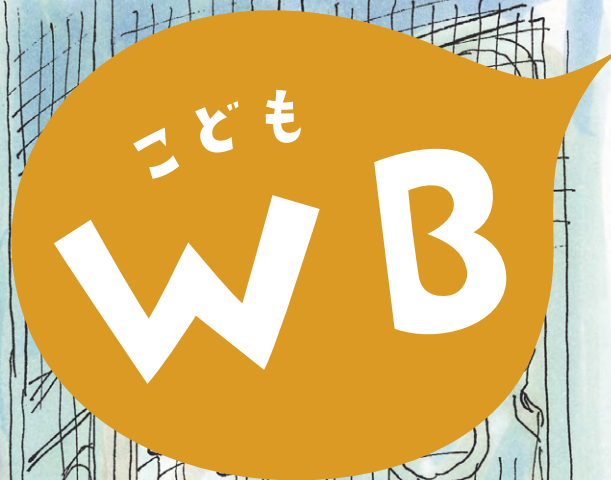
実際、私はロシアで現代版の「行列」に遭遇した。支払いのために銀行に行ったときのことだ。建物に入ると、狭いホールに三十人ほどが雑然と集っており、ある人はカウンターの前に立ち、ある人は壁に凭れたりソファに座ったりしている。これでは順番がわからないと狼狽していると、私の後にやってきた女性が扉を開けるなり「誰が最後ですか？」と訊ねた。すると、ベンチに座っていた別の女性が「私です！」と答える。なんと、この無秩序に見える集まりが「行列」だったのだ。無論、そんな並び方では順番が錯綜し、誰が今最後なのか、次は誰の番なのかを巡って論争が起り、やがて混乱が始まる……しかし、こうした一連のやり取りやそこで話されている言葉は、たしかに私が読んだ『行列』そのままだった。

カンファレンス最終日にはついにソローキン本人が到着した。黒い服を纏い、肩まである灰色の長髪を靡かせる作家は、作品から受ける印象とは反対の実に穏やかな紳士で、議論でも言葉を選びながらゆっくりと話しているのが印象的だった。かつて日本に住んだことのある作家は日本語で「コンニチハ」と挨拶し、現在日本で「早稲田文学」で連載された長編『青脂』の単行本化の計画が進んでいることを知ると、「あなたたちの『青脂』を待っています」という嬉しい言葉を掛けてくれた。

『青脂』はソローキンの過激な作品群の中でも最もスキャンダラスなSF小説だ。未来の半ば中国化したロシアを舞台に、作家の執筆活動からのみ得られる「青脂」という特殊な物質を巡って時空を超えた事件が発生する。中国語や造語が混在する奇想天外な文体、ロシア文豪のクローン作家たちが書き綴る奇怪な二次創作、平行世界のソ連で行われるスターリンとフルシチョフのセックスなど、そこには「ロシア文学」という陰気で重苦しい一般のイメージからはおよそ掛け離れたカーニバル的世界が広がっている。この機会に、是非ソローキンの狂った魅力に触れてほしい。♫

※本エッセイは日露青年交流事業フェローシップの支援による滞在に基づいて書かれている。





①	HR	松下隆志
1	国語	玉川重機
2	算数	円城塔
3	現社	大澤真幸
4	生物	八代嘉美
	給食	望月旬々
委員会	図書	カーリル
バス活動  おめかし 会	発表会	蓮實重彦 黒田夏子

